

『松川浦』

太平洋に面する福島県相馬市の松川浦は、万葉集にも詠まれた景勝地として古くから親しまれた歴史ある地です。穏やかな水面と白砂青松のコントラスト。日本百景にも選ばれ、四季折々の表情を見せてくれます。潮干狩りや釣りなどのアクティビティや浜の駅松川浦など、新鮮な食材を使った食事を楽しめる施設も充実。穏やかな水面を眺めながら、美味しい食事と歴史探訪を同時に楽しむことができます。

株主の
皆様へ

第57期

株主通信

2024年 秋号

2023年10月1日から
2024年9月30日まで

【個人投資家の皆様へ】

詳しくはホームページをご覧ください。



証券コード
5724



<https://www.asaka.co.jp/>



株式会社アサカ理研

Top Message

代表取締役社長 山田 浩太



株主の皆様におかれましては、平素より当社の活動に多大なるご支援、ご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。ここに2024年9月期における当社の事業概況及び今後の見通しについてご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、個人の消費活動には足踏みがみられたものの、企業活動には持ち直しの動きがみられ、物価上昇の影響を受けつつも景気は緩やかに回復しました。一方で、世界的には地政学リスクの高まりやインフレ、エネルギー・資源価格の高騰等、依然として先行き不透明な状況が続きました。

当社グループにおいては、民生電子機器や情報通信機器の需要が低下し、主要取引先において半導体製品等の電子部品の生産量が減少したことにより、貴金属の取り扱い数量は前期を下回りました。

主要製品のうち、金の価格は米国金利の引き下げが行われるとの見方や、紛争による安全資産としての需要の高まりから、ドル建て価格は上昇し、高い水準で推移しました。また、円安ドル高傾向が続いたことも影響し、円建て価格は前期を上回りました。銅の価格は、世界最大の銅消費国である中国の景気に減速がみられるものの、一部の海外鉱山の閉鎖による供給懸念等の要因でドル建て価格は高い水準で推移しました。円安ドル高も影響したことで、円建て価格は前期を上回りました。

このような事業環境の中、当社グループは資源循環型社会の実現に向け、経営基盤の強化及び新規事業の確立に努めま

した。社員一人ひとりが積極的にチャレンジする企業風土を目指して前期に導入した新人事制度に基づき、評価体系のブラッシュアップに取り組んだほか、人材育成制度の構築に努めました。

既存事業では、DX化に伴い拡大が期待される電子部品業界において、取引先とのリレーション強化や独自技術を武器とした新規開拓に注力しました。収益力の向上に向け、営業力の底上げや製造工程の効率化によるコスト低減にも継続的に取り組んでおります。

新規事業では、リチウムイオン電池(以下、LiB:Lithium-ion Battery)再生事業の事業化に向け、研究開発及び事業スキーム構築に注力しました。LiB再生事業の研究開発へは約600百万円を投資し、CO₂排出量の削減とレアメタルの高回収率を両立するプロセスの構築に尽力しました。電池メーカーとの共同開発を経て、同社工場において排出される工程廃材リサイクルの一部を将来的に当社が受託する覚書(MOU)の締結に至りました。当該覚書に基づく取引により、将来的に設備及び研究開発へ投資した金額は十分に回収可能であると見込んでおります。

株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

当連結会計年度の概況

【当連結会計年度は減収減益】

当連結会計年度の連結業績は売上高7,967百万円(対前期3.8%減)、営業利益293百万円(同25.7%減)、経常利益266百万円(同30.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益371百万円(同20.9%増)となりました。貴金属の主要製品価格は前期を上回ったものの、取引先の減産等に伴い、取り扱い数量が減少したこと等により売上高が減少しました。加えて、中長期的な成長を見据えた組織体制の強化やLiB再生事業の研究開発への積極的な投資により減益となりました。

【通期連結業績予想について】

2025年9月期は、主要取引先である電子部品・デバイスメーカーの生産動向が徐々に回復し、貴金属の取り扱い数量が増加すると見込んでおり、売上高は増収となり、営業利益及び経常利益は増益となる見通しです。

一方で、LiB再生事業の設備投資のための資金調達に伴い、一時的な費用負担や支払利息等の営業外費用が増加する見通しです。

当社グループは中・長期的な成長に向けて、社員一人ひとりが積

極的にチャレンジし、企業と共に成長していく企業風土を目指しております。そのために社員が専門スキルや強みを活かせるような制度設計を進め、社員のエンゲージメント向上に取り組んでまいります。

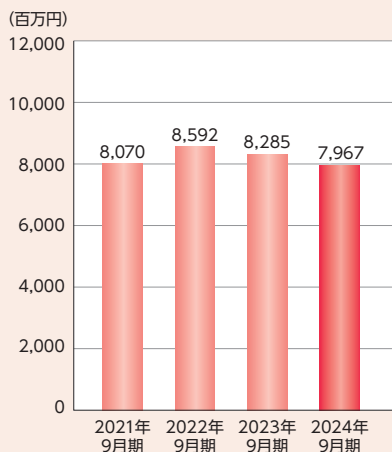
既存事業では、営業力の底上げに継続的に取り組み、取引先とのリレーション強化や新規開拓を進めるほか、製造工程の自動化や効率化に伴うコスト低減により収益力の向上を図ってまいります。

新規事業であるLiB再生事業へはこれまで以上に注力いたします。環境負荷の低減と生産効率の向上を両立させた製品化プロセスの確立を目指し研究開発を継続すると共に、いわき工場への生産設備の導入を進めてまいります。

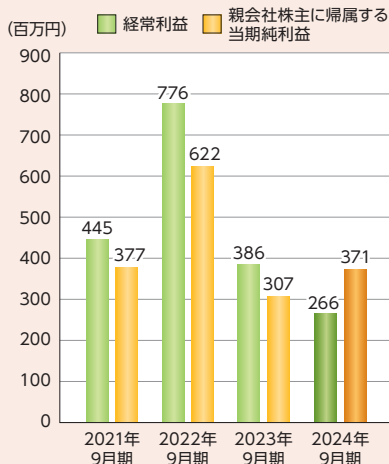
既存事業による収益を増加させ、新規事業へ積極的に投資することで、企業体制をより盤石にし、企業価値の向上に努めてまいります。

このような事業環境の見通しのもと、2025年9月期の当社グループは売上高9,230百万円(対当期15.8%増)、営業利益440百万円(同49.9%増)、経常利益290百万円(同8.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益220百万円(同40.8%減)を見込んでおります。

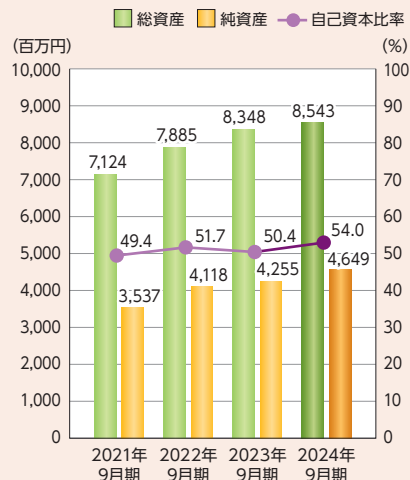
売上高



経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益



総資産、純資産、自己資本比率



連結財務諸表

■ 連結貸借対照表（要約）

(単位：百万円)			(単位：百万円)		
	当期末 (2024年9月30日)	前期末 (2023年9月30日)		当期末 (2024年9月30日)	前期末 (2023年9月30日)
資産の部			負債の部		
流動資産			流動負債	1,910	2,301
現金及び預金	1,517	1,766	固定負債	1,983	1,790
受取手形及び売掛金	465	457	負債合計 ②	3,894	4,092
棚卸資産	1,679	1,259	純資産の部		
その他	60	330	株主資本		
固定資産			資本金	504	504
有形固定資産	4,282	4,097	資本剰余金	369	369
無形固定資産	77	69	利益剰余金	3,756	3,423
投資その他の資産	460	366	自己株式	△ 142	△ 150
資産合計 ①	8,543	8,348	その他の包括利益累計額	121	64
			新株予約権	39	40
			非支配株主持分	—	4
			純資産合計	4,649	4,255
			負債純資産合計	8,543	8,348

- Point ①**

前連結会計年度末に比べて194百万円増加し、8,543百万円となりました。
主な要因は、棚卸資産が420百万円、建物及び構築物（純額）が45百万円、建設仮勘定が160百万円、投資有価証券が81百万円増加し、現金及び預金が248百万円、その他（流動資産）が269百万円減少したことです。
- Point ②**

前連結会計年度末に比べて198百万円減少し、3,894百万円となりました。
主な要因は、借入金が711百万円減少し、買掛金が23百万円、未払法人税等が28百万円、その他（流動負債）が93百万円、借入金地金が289百万円、繰延税金負債が84百万円増加したことです。
- Point ③**

営業活動によるキャッシュ・フローは、799百万円の収入となりました（前期は697百万円の収入）。
この主な内訳は、税金等調整前当期純利益が508百万円、減価償却費が304百万円、棚卸資産の増加額が420百万円、その他（営業）の収入が669百万円、補助金収入が243百万円です。
- Point ④**

投資活動によるキャッシュ・フローは、254百万円の支出となりました（前期は1,108百万円の支出）。
この主な内訳は、有形固定資産の取得による支出が475百万円、補助金の受取額が241百万円です。
- Point ⑤**

財務活動によるキャッシュ・フローは、785百万円の支出となりました（前期は202百万円の収入）。
この主な内訳は、短期借入金の純減少額が809百万円、長期借入金の返済による支出が258百万円、長期借入れによる収入が356百万円です。

■ 連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

	当 期 (2023年10月1日～ 2024年9月30日)	前 期 (2022年10月1日～ 2023年9月30日)
売上高	7,967	8,285
売上原価	5,639	6,032
売上総利益	2,328	2,253
販売費及び一般管理費	2,034	1,858
営業利益	293	395
営業外収益	17	35
営業外費用	43	44
経常利益	266	386
特別利益	244	5
特別損失	2	5
税金等調整前当期純利益	508	386
法人税等	137	79
当期純利益	371	307
非支配株主に帰属する 当期純損失(△)	—	△ 0
親会社株主に帰属する当期純利益	371	307

■ 連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

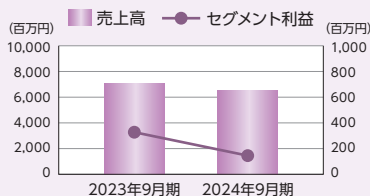
	当 期 (2023年10月1日～ 2024年9月30日)	前 期 (2022年10月1日～ 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー ③	799	697
投資活動によるキャッシュ・フロー ④	△ 254	△ 1,108
財務活動によるキャッシュ・フロー ⑤	△ 785	202
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 240	△ 207
現金及び現金同等物の期首残高	1,138	1,346
現金及び現金同等物の期末残高	890	1,138

■ 事業セグメントごとの状況

■ 貴金属事業

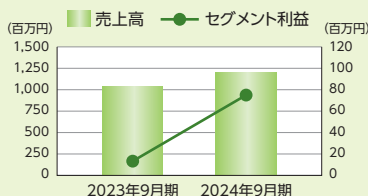
主要製品の価格が前期を上回ったものの、貴金属の取り扱い数量が減少したことにより、売上高は6,530百万円（対前期7.2%減）となりました。

加えて、間接部門の経費負担の増加によりセグメント利益は142百万円（同56.5%減）の減収減益となりました。



■ 環境事業

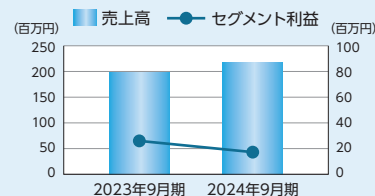
主要製品の価格が前期を上回ったことに加え、主要製品である銅ペレット等の販売数量が増加したことにより、売上高は1,205百万円（同16.2%増）、セグメント利益は74百万円（同453.8%増）の増収増益となりました。



■ システム事業

主要製品である品質管理システムの販売が増加したことにより、売上高は216百万円（同10.5%増）となりました。

一方で、間接部門の経費負担が増加したことにより、セグメント利益は17百万円（同33.8%減）の増収減益となりました。



LiB再生事業が大きく前進しました

当社は、廃棄された車載用のリチウムイオン電池（以下 LiB: Lithium-ion Battery）からリチウム (Li)、コバルト (Co)、ニッケル (Ni)、マンガン (Mn) などのレアメタルを回収し、再びLiBの原料として電池メーカーなどに供給する「LiB再生事業」の事業化に向け研究開発に取り組んでおります。事業に大きな進捗がございましたのでお知らせいたします。

■ 研究開発と原料調達を進捗

当社が開発した工程はLiBに含まれるレアメタルを高い回収率で回収可能です。特にリチウムの回収率につきましては、EUで制定が進められているEU電池規則の2031年目標を既に達成しております。また、従来の乾式処理や湿式処理と比較すると、CO₂の排出量や工程で排出される廃棄物を大幅に削減できております。環境規制の遵守や環境負荷の更なる低減は、当社が目指す循環型社会の実現に必要不可欠であると同時に、LiB再生事業で当社が優位性を確実なものとするためにも重要な要素であるため、今後も技術の研鑽を継続してまいります。

工場の稼働開始後を見据えた原料の調達計画も順調に進んでおります。車載用LiBメーカーであるプライムプラネットエナジー&ソリューションズ株式会社様とは共同開発を経て、同社の工場で発生する工程廃材のリサイクル業務の一部を将来的に当社が担当する覚書（MOU）の締結に至りました。

■ 次なるステップを見据えた追加設備投資

研究開発の成果により、LiBリサイクル市場における当社の競争力を改めて確認したこと、また、将来的なお取引きの目途が立ったことを受け、事業を次のステップに進めるべく、2024年10月にいわき工場への投資額を約70億円へと増額いたしました。この追加投資は回収率の向上や環境負荷低減などの研究開発の成果を同工場に導入するためのものであり、当社がLiB再生事業において国際的に通用する競争力を獲得し、中長期的に価値提供を行うためには必要な投資であります。資源埋蔵量が少ない日本の産業競争力を支えるためにも、国内におけるリサイクルにより資源の海外への流出を防いでまいります。

■ 外部機関からの評価

経済産業省や福島県からは各種補助金に採択していただいております。また、日本政策投資銀行様をアレンジャーとするシンジケートローンにて追加の設備投資のための60億円の資金調達を実施いたします。このような支援は、当社の技術力やLiB再生事業への姿勢を評価いただいた結果であると受け止めております。株主の皆様やご支援いただく外部機関各位のご期待に応えるためにも、LiB再生事業の収益化に向け、今後もより一層対応を加速してまいります。

Information (2024年9月30日現在)

会社概要

商 号	株式会社アサカ理研
本 社	〒963-0725 福島県郡山市田村町 金屋字マセロ47番地
設 立 年 月 日	1969年8月25日
資 本 金	504,295,600円

事業内容

- ①貴金属事業／ 金地金、銀地金、白金地金、パラジウム、貴金属回収精製処理及び販売、各種治具の洗浄・再生、機能部品の再生及び販売
- ②環境事業／ 塩化第二鉄液の再生・販売、銅粉の回収、銅ペレットの製造・販売
- ③システム事業／ 自動計測検査システム、計測ネットワークシステムの開発及び販売
- ④その他の事業／ 工業薬品の運搬、廃液の収集運搬

役 員

(2024年12月20日現在)

代表取締役会長	山田 慶太
代表取締役社長	山田 浩太
取 締 役	佐久間 良一
取 締 役	佐久間 幸雄
取 締 役	市川 文子
取締役(監査等委員長)	三崎 秀央
取締役(監査等委員)	高野 俊哉
取締役(監査等委員)	末代 政輔

(注) 取締役 市川文子氏、取締役(監査等委員) 三崎秀央氏、高野俊哉氏及び末代政輔氏は、社外取締役であります。

株式の状況

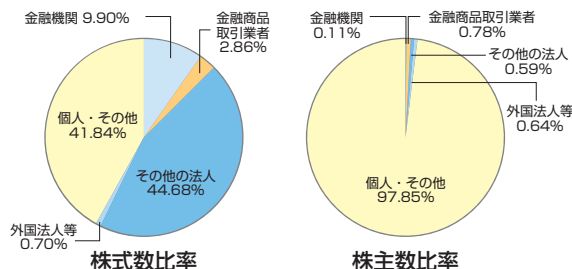
発行可能株式総数	20,400,000株
発行済株式総数	5,144,600株 (自己株式129,498株を含む)
株 主 数	3,444名

大株主の状況

株主名	所有株式数 (株)	持株比率 (%)
有限会社モラル・コーポレーション	2,102,060	41.91
白岩政一	214,100	4.27
株式会社常陽銀行	180,000	3.59
株式会社東邦銀行	162,200	3.23
日本生命保険相互会社	145,000	2.89
東京中小企業投資育成株式会社	100,000	1.99
アサカ理研社員持株会	55,748	1.11
竹内信彦	55,100	1.10
山田慶太	28,933	0.58
株式会社SBI証券	27,083	0.54

(注) 当社は自己株式(129,498株)を保有しておりますが、議決権がないため、上記に含めておりません。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別分布状況



(注) 上記比率は、当社保有の自己株式(129,498株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月30日
配当金受領 株主確定日	9月30日 なお、中間配当を実施するときは3月31日
定時株主総会	毎年12月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL:0120-232-711(通話料無料) 【郵送先】 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

特別口座の 口座管理機関	東京証券代行株式会社（注3）
同連絡先	東京証券代行株式会社 事務センター 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL:0120-49-7009(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行います 公告掲載URL https://www.asaka.co.jp/ ※ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に公告いたします。

- (注1) 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (注2) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
- (注3) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、東京証券代行為口座管理機関となっておりますので、東京証券代行にお問合せください。
ただし、2024年12月31日(火)以降につきましては、特別口座の口座管理機関が三菱UFJ信託銀行に変更となりますので、ご注意ください。
なお、同連絡先につきましては、株主名簿管理人欄に記載のとおりとなります。

PICK UP!



千年の伝統 相馬野馬追

相馬野馬追は千年以上の伝統を誇る騎馬武者によるお祭です。数百騎の騎馬武者が天高く打ち上げられた御神旗を奪い合う「神旗争奪戦」、人馬一体となって疾走する「甲冑競馬」、荒駒を素手で捕らえ神前に奉納する「野馬懸」など、迫力満点の演武がみられます。今年から開催日を盛夏の7月から初夏の5月に変更。いにしえの強者たちの熱気と迫力が感じられる貴重な戦国絵巻です。

福島の旅が丸わかり!!

福島の旅

で検索

うつくしま観光プロモーション推進機構（公益財団法人福島県観光物産交流協会 内）
〒960-8053 福島県福島市三河南町1番20号（コラッセふくしま7階）
TEL：024-525-4024 FAX：024-525-4087